

平成 29 年度 生体機能診断ワークショップ実施報告

医学医療系 関本 道治
 會田 雄一
 真家 紘一郎

筑波大学・茨城県立医療大学の学部交流プログラム「生体機能診断ワークショップ」を1月16日に筑波大学で、1月20日に茨城県立医療大学で実施しました。今回で4回目の実施となる生体機能診断ワークショップは、昨年度同様に「将来医療チームの一員として、各々の専門職種としての役割を果たし患者さんの生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」という課題について専門領域の異なるメンバー間での討論を行い、各専門職種の理解を深め、チームワークおよび当事者の力を引き出すエンパワメントの意義を理解し、ケアの方針をたてる過程を体験する」ことを目的としました。

今回は、筑波大学医療科学類3年38名、茨城県立医療大学放射線技術科学科3年42名、理学療法学科3年42名の3学科122名が参加しました。今年度の生体機能診断ワークショップのプログラムを表1に示します。昨年度と同様に、「生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」を目的に症例を提示し、討論（コアタイム）を中心に行い、3職種の理解を深めるようプログラムとしました。今年度は、「乳がんに関する症例」、「COPDに関する症例」、「脳梗塞に関する症例」の3症例を用いてコアタイムを実施しました。また今年度は、CoMSEP 履修証明プログラムを修了された臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士の受講生を招き、「臨床現場における多職種連携の現状」について講演をして頂きました。

表1 平成 29 年度生体機能診断ワークショッププログラム

1日目 筑波大学 1/16 (火)		2日目 茨城県立医療大学 1/19 (金)	
9:30 ~ 10:30	オリエンテーション	9:30 ~ 10:30	コアタイム-2 (1時間)
10:40 ~ 12:20	アイスブレイク (30分) グループワーク1 (70分)	10:30 ~ 11:30	グループワーク3 (1時間)
13:20 ~ 14:30	多職種連携に関する講演 (20分/1人) ・山田 泰寿 (MT) 放射線医学総合研究所 ・赤津 敏哉 (RT) 筑波メディカルセンター病院 ・丸山 真範 (PT) 会田記念リハビリテーション病院	12:30 ~ 14:30	まとめのワーク (2時間)
14:30 ~ 15:00	コアタイム 全体説明	14:40 ~ 16:40	発表会 (総括も含む)
15:20 ~ 16:20	コアタイム-1 (1時間)	16:40 ~ 17:00	アンケート
16:30 ~ 17:30	グループワーク2 (1時間)	17:00	解散
17:40 ~ 18:00	2日目の説明		
18:00	解散		



図1 生体機能診断ワークショップの様子。

左写真はオリエンテーション 右写真は臨床現場における多職種連携に関する講演



図2 コアタイムの様子 左写真は筑波大学 右写真は茨城県立医療大学でのコアタイム



図3 生体機能診断ワークショップ2日目 左写真は発表会 右写真は症例解説

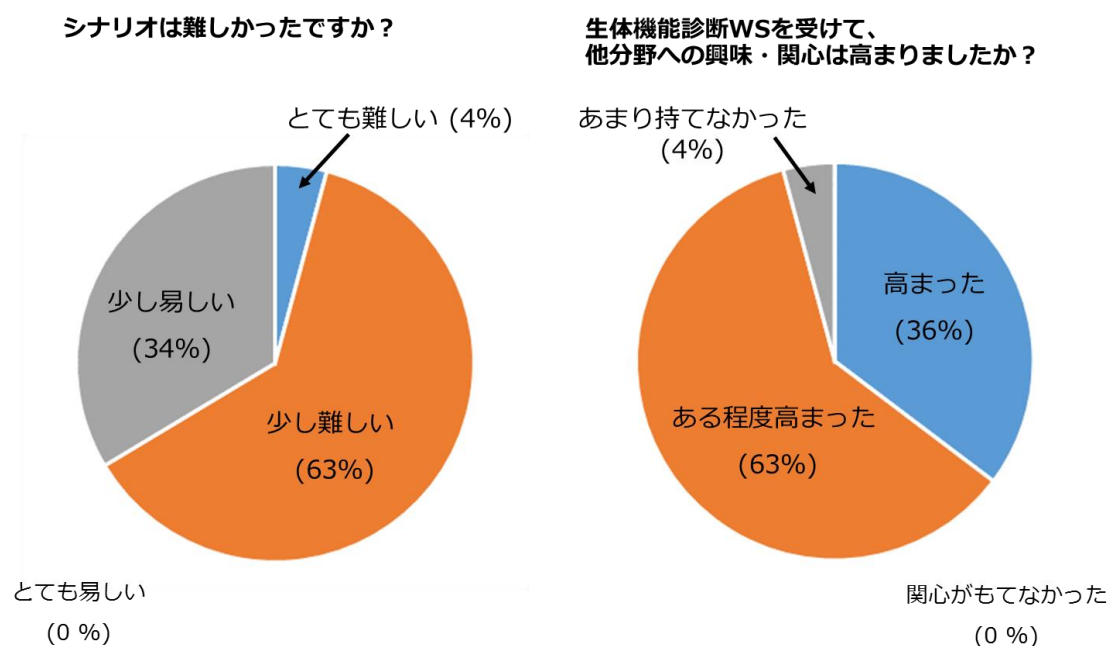


図4 生体機能診断ワークショップ満足度調査の結果

昨年度のシナリオは、学生には難しかったと回答が挙げられたため、今年度は難易度を下げて実施をしました。満足度調査の「シナリオは難しかったか？」との問いに、「少し易しい」との回答が昨年度に比べて多かったです。逆に易しくしたために、「他分野への興味・関心は高まりましたか？」との問いに、「あまり持てなかった」との回答が昨年度より若干増えた結果になりました。シナリオの難易度については、さらに次年度検討をする必要があると考えています。また今年度は、生体機能診断ワークショップが多職種連携教育（Interprofessional Education：IPE）に有効な教育か検証する調査を実施しました。この結果については、改めてご報告致します。この結果も踏まえ、次年度に向けてより良い生体機能診断ワークショップになるように検討していきたいと考えています。

今年度も生体機能診断ワークショップを無事に終了いたしましたこと、関係者の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

筑波医療科学 第14巻 第1号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2018年3月30日